

貝塚公民館の価値を広める、高める ～人のつながりは財産。命をつなぐ～

# しゃべり場★REPORT No.36

R7.12.14

## 今年も！ しゃべり場★ラジオ

R7/5/24(土) 中央公民館まつり会場のコスモシアター小ホール前に【しゃべり場ラジオブース】を設けました。



公民館を利用するクラブや団体の活動や成果を広く市民に伝える公民館まつりは、訪れた市民との交流の場でもあります。日頃の活動の様子や今回のまつりにどの様に参加しているのかを、16の団体にアピールしてもらいました。

都合で来られない団体は紹介文を読み上げましたが、出来るだけ来ていただきインタビューに答えてもらったり、演奏曲やダンスを一部分披露してもらったり、団体希望の曲を流し団体の魅力をお伝えしました。皆さんが公民館を居場所、繋がり場としておられることがよくわかる場でした。

### 〈まつり参加団体〉

貝塚ハーモニカクラブ・木曜書道・木曜英会話・コールシェル・アイナウクレレ・NPO 法人えーる・大人のHIP HOP チェケラッシュ・オカリナふぁみりあ・貝塚子育てネットワークの会・貝塚ファミリー劇場・あこ～る・夢にチャレンジ・ワークサポートらぱん育成会・まつり展示委員会・まつりバザー委員会・公民館職員



ウクレレクラブは演奏も披露してくれました

## 新企画！夏だからこそのかき氷トーク

R7/9/4(木)12時から浜手地区公民館料理室で開催。雨天にも関わらず40名の参加がありました。当日はパソコンクラブ員はじめ、午後からのクラブの方々も来てくれました。積極的に声掛けしていただいた職員の皆さんに感謝です。



「かき氷なんて久しぶりねー」「ひとりじゃできないことを皆ですること、公民館に来るきっかけになると思う」「料理室という場所が良かった。自然とグループが出来て話しやすい」「役員になって嫌だったが、結果的に活動が続いている」など盛りだくさんの会話が途切れることのない2時間でした。

異なるクラブ員同士で話している姿が多く、しゃべり場の目的は達成できたと思います。

公民館についての思いがあふれるメッセージボードは、3館で巡回展示しました。



カラフルな付箋でいっぱいです！

# ホントにすごい！貝塚公民館

連続講座 1 回目

## 「私たちの公民館を知ろう」



R7/11/11(火)13-15時、中央公民館視聴覚室で開催。参加34名でした。講師は貝塚市公民館運営審議会の委員長もされている萩原雅也さん。大阪樟蔭女子大学名誉教授でもあります。今回は公民館の現状について、わかりやすく解説していただきました。

先ず全国的に公民館が減っている大きな理由は

- ① 施設の老朽化に伴う閉館や転用
- ② 社会教育予算減による運営の民間委託(指定管理者制度導入で利用料が必要となる)
- ③ 職員体制の弱体化(非正規職員の増加による専門性の欠如)があって利用者が減少。そこへ、コロナが追い打ちをかけた。

次に貝塚公民館が高く評価される理由は

- ② 公設公営を維持

②市が予算を確保し、3館全てに専門性を持つ社会教育主事(非正規含む職員)がいる。職員は、公民館を必要とする大勢の人の思いをキャッチ、地域のニーズを受け止め、事業として具現化するという作業を、今も続けている。



グループトークにも熱が入ります



これからの公民館の課題については、

- ① 「地域づくりに社会教育の力をどう活かすか」  
これは今、文部科学省の中央審議会で議論されている。
- ② 「利用者の固定化」
- ③ 「指定管理者制度」  
職員が極端に減った地方などでは利点もある。



また公民館の歴史については、1965年～75年にかけて、当時「女工さん」と呼ばれていた女性労働者のための「貝塚女子高等学院」を公民館内に設置したことや、70年代からは、保育付き講座、障がいがある人のための講座、高齢者講座、各種ボランティアの育成等、活発な公民館活動があったことなどのお話があり、興味深く聴きました。



親子連れの参加もありました

# ホントにすごい！貝塚公民館

連続講座 2 回目

他の公民館ってどうなってる？



R7/11/25(火)13-15 時、中央公民館視聴覚室で開催。参加26名でした。講師は社会教育推進全国協議会会員の播磨正弥さん。2012年に大阪府守口市役所入庁、16年まで市立中央公民館職員として勤務されました。この年に公民館がコミュニティセンターへ施設転換し、公民館の形が大きく変わっていった只中で、職員として感じたこと、知れたこと、学んだことなどをお話していただきました。

## 1 守口市の概要と公民館の昔と今

人口約14万5千人。世帯数約7万。大阪市と隣接する衛星都市のひとつ。

以前は各中学校区に1つずつ、10館と1分室があり、それぞれに3~7名の職員が配置されていた。(公設公営)

当時19小学校区単位に公民館地区運営委員会を組織。運営委員会には各町会の会長や民生委員など。地域とのつながり(公民館祭や盆踊り大会)を持ちながら運営されてきた。

社会教育主事任用資格を持つ職員も配置されていた。

現在、公民館は廃止。コミュニティセンターとなり、指定管理者が運営している。

## 2 守口市立中央公民館で取り組んだこと、学んだこと

○趣味・教養活動からサークル結成を促す。発表、自己実現の場を作る。健康体操サークルを養成。絵本の読み手サークル養成講座。講座のニュースを発行。

○文化サークル連絡協議会、サークル発表会。

**気づき**公民館職員の役割は、講座の企画や立案だけではなく、講座や学習の記録化や来館する人

に教育職員としてどのように接するかを常に考え続けること。

## 3 現代社会的課題を学ぶ講座を企画立案

○学習の自由を守り、どのように実践していくか。東日本大震災から学ぶ講座「原子力発電を学ぶ」その他憲法講座、格差貧困の問題、世界平和、憲法と暮らしなど。

**気づき**公民館講座の企画は、科学的であること・社会の真実を知ること。

## 4 遠い世界、知らない世界を知り合う講座の時間を創造する

○東日本大震災に関連する講座で母子避難者当事者からの語りを聞く→同じ子育て世代のお母さんたちの共感があった。会場にも避難者の方がいた。

○市民の公募企画委員と作る、虹色サラダの会から、「ソーシャルインクルージョンの講座をやりたい」~いろいろあって、精神障がいのある方にこれまでのライフヒストリーを語ってもらうことに~お父さんお母さん息子さんの話を聞いて大号泣「次は自分がやりたい!!」と希望者続出

○次の年、統合失調症をネタに当事者による落語を企画した。

**気づき**知らない人と知らない人が知り合うことで本当に理解しあうこと。身近に引き寄せて社会課題を考えること、こうした教育機会を作ることが大切。

## 5 公民館廃止によって起こったこと



○施設利用の有料化で人数の少ないサークルの解散。文化サークル発表会の中止。

○公民館から異動後、文化サークル連絡協議会会長から「公民館職員がいなくなってしまう以上続けられない、もう辞めたいんや。」と言われる。

○現代的課題に関する講座の取り組みがなくなる。



○参加費を徴収する趣味教養講座が中心へ。虹色サラダの会などの市民参加型講座もなくなる。当事者が語り、知らない人が知り合う機会が生まれない。

○社会との接点の喪失。ある利用者のお母さんより、「あの子にとっては、公民館が社会との接点だった」

○かたつむりの会「何かを一緒につくることがなくなった。ただ単に会場を借りるだけになった」

## 6 私から見た貝塚公民館のすごいところ、大切にしてほしいところ

① 公民館が公民館としてある。

他市では施設の複合化や、廃止が進む。

まちづくりセンターなどとの複合化(岡山市)

貸館中心のコミセン化(守口市)

→教育施設としての公民館を大切に!!

② 誰でも使える

「公民館は一部の人が使っているものだから有料化」と言われるが、行政のあらゆる部署が一部の人のためのもの。(生活保護、障がい者福祉など) 私たちの税金 収入の約3割は、租税として徴収されている。日本の国民負担率 48.1% 社会保障負担率 19.2% 租税負担率 28.9%(2021年財務省)

③ 学習の支援者がいる

正規職員や社会教育主事有資格者を配置。

公民館に集まるモヤモヤしたもの(課題・困難)を私事にする。そこでモヤモヤがつながる(組織化)。モヤモヤについて学ぶ(学習)。もっと大きな地域、社会につながる(公共へと変化)。

## 7 おわりに

「公民館がある」ことを大切な前提にする。

「公民館をする」を心がけていく。

自分を大切にして、相手も大切にできる地域や社会を作れるのではないのでしょうか。



(参加者の感想です)

講師は守口市の公民館が廃止になった時に公民館の職員で、当時公民館廃止によって起こったことなどをお話していただきました。

よく公民館は一部の人だけが使っていると言われますが、生活保護や障がい者福祉など、行政のあらゆる部署は一部の人のためのものです。現在、社会教育分野以外にいるからこそ、「一部の人が使って何が悪いの?」と思うとのことでした。

また、公民館が廃止になったのは、市の財政課題が理由だそうです。

けれど、公民館で学んだからこそできる地域活動があります。まさしく「公民館は、学ぶことを通じて、地域を耕す人材を育てている」とあらためて実感しました。

## しゃべり場★公民館とは

▶しゃべり場を始めた2012年より前に、公民館利用の有料化の噂がありました。そんな折、市のホームページで「貝塚市新生プラン」というものを見つけました。これは、「人口減少等により歳入は減っていくので、ムダな歳出を見直そう」という内容(現在第3次プラン 令和3~7年度)で、「社会教育施設利用に関して受益者負担の見直し」という項目が気になりました。このとき初めて、公民館有料化の噂にはちゃんと根拠があったことを知り、このことを利用者に周知したいと思いました。そのためにはまずは利用者が集う場を作りたい。そして公民館とは? 社会教育とは? を学ぶ場を作りたいと思いました。

▶そんな時、3公民館連続講座がありました(平成24年3月)。その講座後、有志の間で「公民館のいつもの活動をどうしていくか、もっと具体的に考えていく必要がある! それは、職員任せではなく、利用者も一緒に考えなければいけない」と利用者・職員が共に企画し、公民館の事業として位置づけられて始まりました。

▶しゃべり場は誰でもいつからでも参加できます。

ホームページは  
こちらから↓

